

# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 川部会編 vol.9



発行日：平成 27 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第6回川の地域部会を開催しました！

第6回川の地域部会では、今年度の川部会の活動成果報告と、来年度の活動計画について話し合い、全体会議に諮る内容について確認しました。

日時：平成 27 年 1 月 16 日（金）14:00～16:30  
会議場所：豊田市視聴覚ライブラリー2F 第1会議室  
参加者：18名（事務局含む）



## ◆主な確認できたこと

- 鷺見先生から白浜工区や久澄橋下流での今年度の研究状況の報告をいただいた。本川モデルの活動成果として、鷺見先生からの報告内容を追加して整理する。
- ニュースレターvol.7～8（暫定版）については、各自で確認し、修正等あれば事務局に依頼する。
- 来年度の活動計画で、本川モデルの活動方針は、「豊田市矢作川河川環境活性化プランとの情報共有」について追加する。また、総合土砂管理に関する先進地視察と検討委員会との情報共有が重要であることを確認した。
- 家下川モデルの活動方針は、事務局案のとおりとする。
- 地先モデルの活動方針に、公開ヒアリング、矢作古川分派堰への見学会を来年度検討することを追加する。

## ◆主な意見交換内容（・意見 ▶回答）

### 1. 今年度川部会の活動成果報告



- ・ 本日の鷺見先生からの研究報告の内容を今年度の活動成果に追加すること。（内田）
- ・ 白浜工区で繁茂しているヤナギはどうするか。（小澤）
  - ▶ ヤナギはある程度間伐したいと考えている。せせらぎと池もどうするか考えたい。第2の遡上時期があり、2月頃までしか河道を触れない。（小林）
  - ▶ ヤナギは、7月までが急成長期なので、年度の早いうちに対処した方がよい。ワンドの部分は、ヤナギがあるほど砂がたまってしまっているので、早く伐採した方がよい。上流部分については、どう考えるか今後調整が必要。（鷺見）
- ・ ヤナギは、根っこから取らないと再生が早い。（事務局）
  - ▶ 本体の木に直接薬注処理する方法がある。木津川でやってみるとかなり効果があった。大きくすると問題なので早めに対処を。白浜工区には、当初のカット面から下の部分が玉石層になっているので、そのことも含めて対応を考えた方がよい。（鷺見）
  - ▶ 今後、アドバイスをよろしく願いたい。（事務局）
- ・ ニュースレターは、vol.1～6は皆さんに確認いただき確定版となっている。vol.7～8は暫定版なので、後日、各自で確認いただき、修正等あれば事務局まで願いたい。（事務局）



### 2. 来年度の活動計画



#### （1）本川モデル

- ・ できるだけ多くの人に参加してほしい。どうすれば、進んで参加してもらえるのかを考えながら、来年度の活動計画について意見交換を行いたい。（内田）
- ・ 保全エリアマップのイメージは、どのようなものか。（山本）
  - ▶ 瀬淵の分布については、1年前に調査している。議論の中で、アユと普通の魚の役割は違う。どこでどの機能を担保するのかを考えることが必要。（鷺見）
- ・ 全く新しくつくるのではなく、河川環境情報図を議論のたたき台にすればよい。（内田）
- ・ 目標が見えないことが問題とNLのふり返りに記載があった。めざす目標を議論していく必要があると思う。（内田）
  - ▶ この川にどんな機能を求めているのか。遊び場、アユなど、どんな機能があってほしいのかを把握するのが第一で、バランスの問題もある。目標設定に向けてどうアプローチするか。（鷺見）

- ・昔がよかったというが、どの時代がよかったかが分からない。ここにどういいう川を目指すのかがあらあら見えてきているのではないか。(内田)
- ・私の団体では、2020年の目標を2010年の貝の漁獲量を維持しようということを考えている。(山本)
- ・ダムが運用されていたのに、アユが多い時代があった。問題になり始めたのは、1990年代から。それ以前を目標にしたらどうか。(内田)
- ・ダムができて20年くらいで問題になるのは、どのダムも共通。今見ているのはダムができてからの平衡状態。それ以前はその途中段階の非平衡の状態なので、どの時代がよいかは難しい。立場によっても目標設定がかわってしまう。(鷺見)
- ・目標とする時間スケールを2つもってはどうか。ダム群があって、土砂が流下してこない時の将来像と、これくらい砂州が増えたらいいという長期的な目標がある。(鷺見)
  - 将来的な目標は、どうやったらいいかイメージできない。具体的に議論するにはどうするか。(山本)
  - 土砂を流すのが前提にできるのか。川の中に手を入れるくらいしかできないのか条件が明確にならないと目標設定できない。(鷺見)
  - 白浜工区などの河川整備を踏まえた検討が必要。(西原)
  - こんな場所があったらいいと目標の話の両面から検討してもいい。(鷺見)
  - 今後も目標像の検討をしましょう。(内田)
- ・豊田市の河川活性化プランとの連携についても記載してほしい。(内田)



## (2) 家下川モデル

- ・阿部氏より、承水溝の浚渫と段差解消の検討は、来年の活動方針にぜひ入れてほしいとのこと。(事務局)
- ・承水溝と長池の水面の関係については、鷺見研究室で調査する予定である。(鷺見)
- ・ゲートの管理者と位置づけについて、豊田市で確認できたか。(事務局)
  - 管理者・位置づけとも不明ではあったが、豊田市河川課で対応することとした。(鈴木)
- ・家下川モデルについては、この案で全体会議に諮ることとする。(内田)
- ・支川モデルの活動を地先モデルとリンクしたらどうか。(事務局)



## (3) 地先モデル

- ・活動団体は、地先だけを見ているという印象である。各地先で起こっている課題を集約することは重要だと思う。「専門家リストの試行運用」とは何をイメージしているのか。(山本)
  - 当初は、課題があった時に専門的なことを相談できる専門家がいたらいいということであった。(事務局)
  - 積極的に公表するものでもなく、関係者間で専門家リストがあることを共有できればいい。試行運用とすると、懇談会で事業を始めるようなイメージなので、「共有」としたい。(内田)
- ・出席しているメンバーが知っている団体を紹介して、WGに出てもらおうような働きかけしてはどうか。懇談会メンバーにならなくても、意見が聞ければいいのでは。(伊奈)
  - 公開ヒアリングみたいなもの。(山本)
- ・古川分派堰の見学会にも、懇談会メンバーで参加して議論できるといい。(内田)



## (4) 運営について

- ・本川モデルで、上流から流下する土砂の粒径や流下量が重要になっているので、矢作ダムから下流部の間の電力ダムを管理している中部電力にも、できるだけWGに参加してもらえないか。(内田)
  - 了解した。現状で把握していることについては、情報提供可能である。(大塚)
- ・参加のしやすさを考えると、土日祭日のイベントも考えてもらえるといい。(野田)

## 3. 振り返り



**よかったと思うこと：**今までワーキングした事をまとめて振り返りができたこと。/中電、漁業関係、河川の活動をしている一堂に出席されたこと。/本年度のまとまりが良くできていた。/参加者が少なく、発言の機会があった。

**よくなかったと思うこと：**生き物の棲みやすい川づくりの目標がはっきりできていないことが残念。/参加者が少なく、議論の広がり、発展がなかった。

**来年度、川部会で取り組みたいこと：**改善された所を、改めて見に行く。/最近出席されていない団体の方の出席があるとよい。/川を利用する人の話し合いをしたい。/現場を見て現状の共通認識を深める。

**活動に向けて、自分ができること：**自分のできることを探します。/対外広報、参加呼びかけ

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

